第40節の隠された歴史 - 第34回

エゼキエル書 第十五回

Jeff Pippenger
2026-10-28

隠された五か月

第10節に表されているイスラム教のメッセージは、1838年にジョサイア・リッチによって、第15節に示された時と関連づけて提示された.その時点では、その預言にはリッチにとって隠されたままの部分があった.1840年8月1日までに、リッチは、1838年以降に「五か月」というメッセージから彼に明らかにされた事柄に基づき、より詳細な解説を公表した.1838年には、黙示録第9章の「五か月」というメッセージの一部が、リッチには隠されていた.「五か月」の預言のうち隠されていた部分の封印は、1840年より前にリッチに対して解かれ、その封印の解除によって、1840年から1844年にかけて神の力の顕現がもたらされた.

第五節の五か月は、2026年まで隠されていた.エリサベツが五か月にわたって身を隠していた後に姿を現すと、マリアが彼女のもとにやって来た.マリアは、身を隠していた五か月を十人の乙女のたとえと結びつける.というのも、エリサベツとは異なり、マリアは身ごもった処女であり、エリサベツは子を産む年齢を過ぎて身ごもった女性だったからである.どちらの場合も、それぞれの意味で奇跡的な出産であったが、マリアは処女であった.すべての預言者は世の終わりについて語っており、終わりの時代にマリアによって表される乙女たちは、第三天使のフィラデルフィア運動を構成する五人の賢い乙女であり、その数は十四万四千人とされている.エリサベツとマリアが出会うのは、エリサベツが五か月間身を隠した後の六か月目である.第五節の五か月は、2026年まで隠されていた.

ヨハネが生まれると、マリアはナザレに帰り、ザカリヤは再び口が利けるようになった.マリアは、日曜休業令の時、すなわち預言が語る時に戸が閉ざされるまで、エリサベトと共にいた.ザカリヤは、口が利けなくされるアルファの道標であると同時に、息子の誕生に際して語るオメガの道標でもある.ザカリヤは始めにも終わりにも位置し、第一の天使と第三の天使の両方を表している.エリサベトは第二の天使のメッセージであり、マリアは、五か月の隠遁期間の終わりにエリサベトに加わる、真夜中の叫びのメッセージである.

ノアの一家八人は五か月間、箱舟の中に隠されており、その後、箱舟はアララト山にとどまった.真夜中の叫びはエクセターで第二の天使と合流し、十人のおとめのたとえの成就として、1844年10月22日に戸が閉じられるまで続いた.マリアはエクセターでエリサベトと合流し、ヨハネの誕生までそこにとどまった.

1838年にリッチに対して隠されていたメッセージは、「五か月」のメッセージであった.五か月が隠されていたことは、箱舟の中の八人によって表されている.それはまた、エリサベツが妊娠の最初の五か月間、身を隠していたことでもある.1838年には、主が五か月を御手で覆っておられたのであり、主がその五か月から御手を取りのけられると、リッ

チはその成就の十日前に、その日付を公表できるようになった.今提示されているように、終わりの日々に五か月のメッセージの封印が解かれるとき、あなたは、1844年8月12日から17日までのエクセターの天幕集会の六日間という時点に立っている.その六日間に続いて、1844年10月22日に戸が閉ざされるまでの六十六日間があった.全体では七十二日間であったが、それらを預言の時系列線上に配置し、そのうえで道標を個別に取り出してみると、エクセターの天幕集会によって表された包囲のしるしは六日間であり、その後、戸が閉ざされるまで六十六日間が続いたことがわかる.預言的には、この期間は6 6 6と表される.

エクセターから10月22日までの期間によって表される包囲の歴史は、カインから数えて六代目のレメクによって表されている.五か月の預言の封印が解かれた直後に、戸は閉ざされる.戸は段階的に閉ざされていくが、アドベンティズムにおけるその過程は9/11に始まり、包囲の時に終わる.包囲の時が到来すると、あなたがたは、カインの系統のレメクか、セトの系統のレメクのいずれかの品性を現すことになる.その歴史を表す数は、カインの系統のレメクの場合は6 6 6であり、セトの系統のレメクと勝利の教会の場合は7 7 7である.

二人のレメク、および666または777によって表される二つの品性は、ナッシュビルの火の玉に関する警告について、なぜアドベンチストたちは沈黙していたのかという問いが提起され、アドベンチズムが世間の注目を浴びることとなる出来事を契機として、現れ始める.動物たちが傾斜路を上って箱舟に入る姿に予型として示されていたように、激化するこの論争は、間もなく到来する日曜休業令によって戸が閉ざされるのに先立つ、目に見える実証となる.次第に強まるこの目に見える警告は、カルメル山でのエリヤの経験と、1844年のミラー派運動によっても予型的に示されていた.

包囲戦の預言的構造

都市の破壊をもって終結する包囲という預言的構造は、一つのしるしに始まり、一つのしるしに終わる期間を表している.それは、ある期間とある時点を表している.像が形成される期間は、さまざまな形で表されている.霊感による証言に見られるこの種の預言的構造はすべて、獣の刻印をもって頂点に達する、獣の像による試練の期間を予表している.

> 「『獣の像』は、プロテスタント諸教会が自らの教義を強制するために国家権力の援助を求めるときに形成される、背教したプロテスタント主義の形態を表している.『獣の刻印』については、なお定義する必要がある.」『各時代の大争闘』、445ページ.

その期間は、獣のために、また獣をかたどって造られる像の形成を表している.獣の刻印が強制されるのは、形成されつつあったその像が、言葉を発することによって日曜休業令を成立させられる段階に達したときである.ローマの権威を示す刻印は、エルサレムが滅ぼされた際に、ネブカドネザルによって予型的に表された.バビロンであれローマであれ、包囲の構図は、終わりの時における北の王を強調している.1333年から1337年に至るオルハンによる包囲と、1449年7月27日から1453年のコンスタンティノープル包囲に至る4年間は、1840年8月11日から1844年10月22日までの期間を予型的に表しているだけでな

く、これらの包囲はまた、聖書預言における東風の子らとしてのイスラームの役割をも強調している.北の王（バビロンまたはローマ）と東風という主題は、ダニエル書11:45にある「東から、また北からの知らせ」のことである.

> しかし、東から、また北からの知らせが彼を動揺させる.それゆえ彼は、多くの者を滅ぼし、ことごとく絶ち滅ぼそうと、激しい憤りをもって出て行く.ダニエル書11:44.

1449年7月27日から1453年のコンスタンティノープル包囲に至る4年間は、4年という期間を示すだけでなく、1448年のヨハネス・パレオロゴスの死と併せると、5年という期間としても表される.

この構造は、エルサレムの二度の滅亡のいずれにも、またノアの洪水にも表されている.エジプトにおける最初の過越にも、この構造は見られる.そのとき、滅ぼす天使が戸にある血のしるしを見ることが必要とされ、その戸はファラオとその軍勢を海の中へと導き、ついには東風が解き放たれ、水が約束の地への入口の戸を閉ざした.この構造は、313年から321年の最初の日曜休業令までのペルガモ教会のアルファの歴史にも、533年のユスティニアヌスの勅令から538年の日曜休業令までのペルガモのオメガの歴史にも見られる.ペルガモの場合、しるしは布告または勅令であるが、そのいずれも、日曜休業令において頂点に達する一つの期間の起点となっている.

エゼキエルにおけるエルサレムの包囲と破壊の構造は、紀元前587年から紀元前586年にわたるものであり、その期間は、両端を含めて数えると2年、含めずに数えると1年半となる.預言におけるもう一つの包囲の構造もまた、紀元前200年のパニオンの戦いと紀元前198年のシドン包囲を含むパニオン遠征の2年間によって表されている.エゼキエルの妻の死は、レメクの死、ヨハネス・パレオロゴスの死、およびパニオンの戦いに対応している.